

## 委員意見と対応方針

## 1 局横断的な検討

整理 番号	委員意見	対応方針	今回 対応	次回以降 で対応
1	作業部会で議論する際に、他局にオブザーバーとして参加してもらい、多様な分野の意見が聞ける場を設ける必要がある。	今回の素案策定作業部会では多様な分野の意見が聞けるよう、特に関係の深い住宅都市局、農林水産局、経済観光文化局がオブザーバーとして参加している。	●	
2	Fukuoka Green NEXT に関して、業務の縦割り感がある。局横断的に「ネイチャーポジティブ」について検討していくべき。	「ネイチャーポジティブ」について、局横断的に検討していくことは重要と考えており、今回の素案策定作業部会ではこの観点での議論を想定し、農林水産局、住宅都市局がオブザーバーとして参加している。	●	●
3	福岡市の場合は、経済をどのように回していくかとの視点が大事であり、環境ビジネスについて積極的に議論すべき。	次期計画では「環境」「経済」「社会」の統合的向上の視点が重要と考えており、今回の素案策定作業部会ではこの観点での議論を想定し、経済観光文化局がオブザーバーとして参加している。	●	●
4	福岡市域の3分の1は森林が占めているが、その約7割がスギとヒノキの人工林という現状で、適切な間伐、植え替え等を行わなければ生物多様性の保全はできない。山林対策をいかに講じていくか、検討していく必要がある。	森林の保全・回復は「ネイチャーポジティブ」の推進に重要な視点と考えており、今回の素案策定作業部会ではこの観点での議論を想定し、農林水産局、住宅都市局がオブザーバーとして参加している。	●	●

## 2 福岡市基本計画との関連

整理 番号	委員意見	対応方針	今回 対応	次回以降 で対応
5	福岡市基本計画の基本戦略について、福岡市特有の産業構造を踏まえた記載があってよい。また、「多様な人材が育ち、チャレンジできる環境づくり」に関しては、具体的な施策を想起させる文言があってもよい。最後に、「広域的役割」については、他都市のモデル都市となるべく、より強調されていてもよい。	福岡市基本計画に関するご意見について、同計画の基本戦略を次期環境基本計画にどのように落とし込んでいくかという視点で検討していく。 なお、福岡市基本計画の改定状況については、参考資料にてお示しさせていただく。	●	

2 福岡市基本計画との関連

整理 番号	委員意見	対応方針	今回 対応	次回以降 で対応
6	福岡市基本計画の分野別目標については、抽象的になりがちで、環境問題が悪化している現状において、より市民の行動変容を促せる具体的な目標を設定できるとよい。	福岡市基本計画に関するご意見について、次期環境基本計画において具体的な施策がイメージできるような文面となるよう検討していく。 なお、福岡市基本計画の改定状況については、参考資料にてお示しさせていただく。	●	

3 次期計画の内容

整理 番号	委員意見	対応方針	今回 対応	次回以降 で対応
7	Well-beingの視点から市民が環境問題を自分事として考え、一人ひとりが行動していく仕組みを作っていくことが重要。	次期計画では「行動変容」を促進する内容とすることが重要と考えている。今回、市民一人ひとりの行動変容やWell-beingの視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
8	市民一人ひとりの「生活環境」というものもしっかり考えていく必要がある。環境を人間や社会を取り巻く外的な事物の総体として広く捉えると、「生活環境」の豊かさがウェルビーイングに繋がり、この構造がグローバルな環境問題の解決にも繋がる。	快適で良好な生活環境を保全することは、持続的な経済社会活動の基盤となるものであり重要な視点と考えている。今回、同視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
9	国の環境基本計画では、「自然資本」という言葉が多く入っており、福岡市の次期計画でもこの言葉を全面に出すとよい。	「自然資本」は持続的な経済社会活動の基盤となるものであり重要な視点と考えている。今回、同視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●

3 次期計画の内容

整理 番号	委員意見	対応方針	今回 対応	次回以降 で対応
10	国の視点と整合を取ることは大事だが、福岡市の地域特性を踏まえながら検討していくことが必要。	次期計画については、国の環境基本計画との整合を図りつつ、福岡市の課題や地域特性に応じて検討していく必要があると考えており、福岡市の環境の現況等をお示ししている。今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
11	国のトレンドに合わせるだけでなく、福岡市の強みや弱み、特性を分析したうえで、次期計画を検討していく必要がある。			
12	福岡市といえば都市部だけを考えがちだが、区によっても様々な特色があり、地域の多様性も検討していく必要がある。	福岡市は都市と自然が共生し、エリアによって特徴も異なることから、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。		●
13	環境保全や脱炭素につながる取組みについて、対応の必要性はわかるが、何から始めてよいかわからない中小企業が多いようであり、自治体としてできる事をよく考える必要がある。	次期計画では中小企業の環境経営を促進する内容とすることが重要と考えており、今回、事業者との連携の視点を踏まえた方向性案を示しており、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
14	市民に理解してもらえる計画にする必要がある。例えば、「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」の意味を知らない市民も多く、用語を理解してもらう必要がある。	市民に伝わりやすい計画とすることが重要と考えており、同視点を踏まえた方向性案を示しており、用語等については、今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●
15	小中学生への環境教育に力を入れてほしい。	市民の行動変容を促すためには、環境教育・学習が重要と考えており、今回、次期計「福岡市環境教育・学習計画」を統合する案をお示ししている。今後具体的な内容について審議会及び作業部会で議論をお願いしたい。	●	●